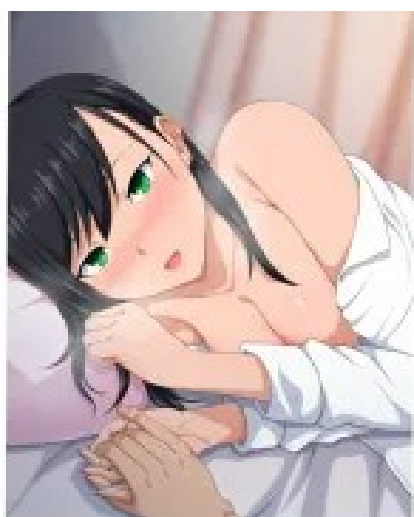
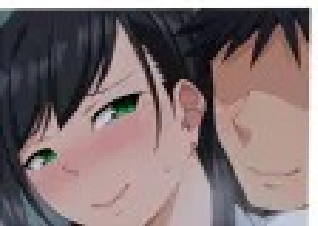
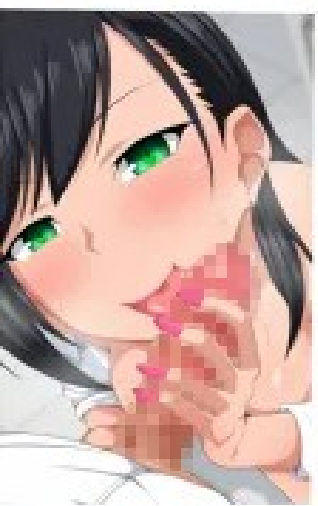




僕の彼女は狂犬です。



転校生の
「斉木ゆかり」さんだ
何か、一言あいさつでも…

…

…無いんだな
じゃ席ついて
授業始めるぞ

男ばかりのうちのクラスに
女子の転校生が…。





早速彼女に話しかけてる奴がちらほらと・・・。
だけどガン無視されて全く相手にされてない。
大体の奴はノリが悪いと早々に諦めていたが
何人かは粘り強く話しかけていた。
しかし、次の日には彼女に話しかける奴はいなくなった。
僕もクラスの野郎たちのノリに合わせないのでクラスでは
浮いているのだが、彼女もそうになっていた。

ねえ、一緒に
お昼食べない？

ある日の昼休みの事……。

え、いっけど…

じゃ、行こ

斉木さんに昼飯と一緒に
食べようと誘われた。
別に断る理由もないので
一緒に教室を出たが
クラスの連中の視線がすごかった。



はあ…いい天気だし
静かでいいなあ…ここ

屋上入っちゃダメ
だけどね…しっかし
よく鍵開けたね

まあね、あつ、この事
チクッたりしないですよ？

しないよ…僕も
屋上出てみたかったし

それでさ、なんで僕
誘ってくれたの？
クラスの連中
びっくりしてたよ
いろいろと…

うちのクラス
チャライやつばかりで
騒がしくて落ち着かないしね

あんなの相手にしてないし
まともなの川田だけだし
お屋一人だと寂しいし…
あ、でもちよっと注目させ
ちゃったし迷惑だった？

格好のせいで変な仲間
意識持たれるし…
ああいう男大嫌いなものね
なんであんなクラスに
入れられたんだろう…

そんなことないよ
誘ってくれて
ありがとう

ホント…クラス割
決めた人に
聞いてみたいよ

ね…

そんなこんなで斉木さんと
話をしながら弁当を食べた。

川田って下の名前
なんていうの？

「りく」だけど

ごちそうさま…っと
それにしても斉木さん
結構しゃべるんだね

んゝ別にしゃべるの
好きでもないんだけどね…
私たち気が合うのかも♪

そうかもね

あ、卵焼きとっても
おいしかったから
川田のお母さんに
おいしかったって
言っというてね

あう…あれ
僕が作ったんだよ

えっ!?
マジで…
すごいじゃん!

んゝ…そうだ!
ねえ、ちよっと
目瞑ってて

え、うん



ちゅっ♡

えっ…えっ!?

卵焼きのお礼
…へへへ//

あ、ありがとうございます
じゃあ…明日も
作ってくるよ!

うん!
楽しみに
してるね!

まさかキスされるなんて。
斉木さん色々可愛すぎて
心臓止まるかと思った。





二人の距離はどんどん縮まっていった...



そして僕たちは恋人になり
より深く愛し合うようになった。

ゆかり…

りくっ♡

やあ…♡

はあ…♡

ぎゅ♡



へへ…今ね
とっても幸せ♡

うん、ゆかりの手
から伝わってくるよ
ゆかり…愛してる

私も愛してるよ
…りく♡

二人だけの特別で
幸せな時間…。





この日は放課後僕以外のクラス全員が補習を受けていた。

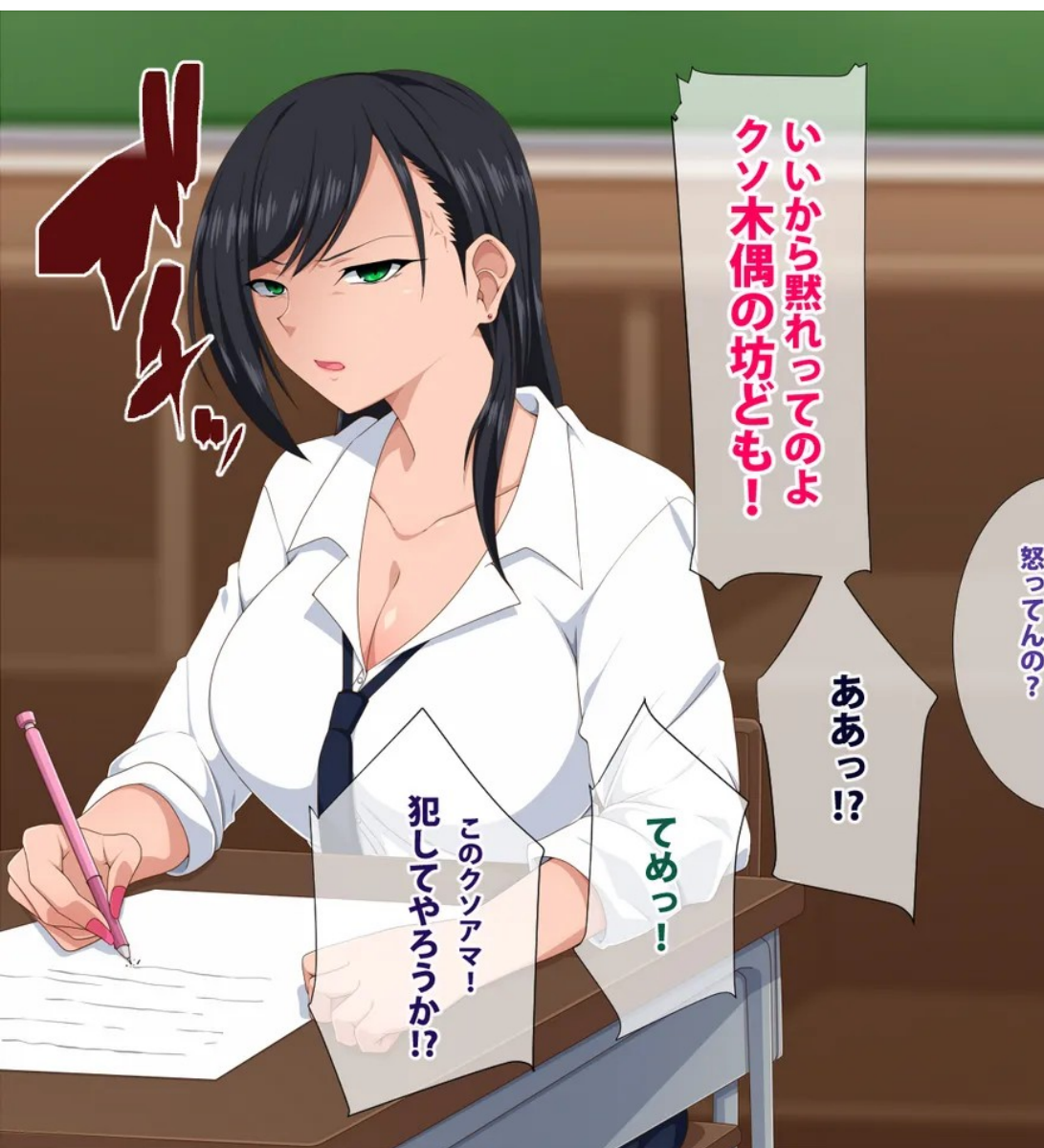


先公も出てったし
補習さぼって俺たちと
遊びに行かねえか？

ホント、あいつより
俺たちの方が
お似合いだって…

なあ、斉木：川田と
付き合ってるんだろ？

あんなつまんなそうな
ヤツと付き合ってた
楽しいのかあ？



いいから黙れってのよ
クソ木偶の坊ども！

ああっ!?

てめっ！

このクソアマ！
犯してやろうか!?

てかさ、あいつと
セックスしたって
つまんねーだろ？

アソコもちっさそう
だしな〜ハハハ！

うっさいのよ…

あ〜？短小彼氏
馬鹿にされて
怒ってんの？

彼氏に不満で
イライラしてんだろ〜

欲求不満なら
俺たちのデカチンで
イカせてやろうか？



触んなつ！



そんなにやりたいなら
相手してやるわよ...

二度と出来ない
ようにね...

がっ...あっ!
ぐっ...ごはっ!
斉木っ...てめっ!

おい!こいつ
押さえる!!

いや...こいつ
何かヤバいって

目がマジ
じゃん...

ド
ズ...



ふくん言うだけあって
デカいのはデカいじゃん

ゴムまで用意して…
マジで猿じゃない…
キモっ…汚いから使うけど

へっ…ハメて
後悔すんな…

ぐあっ！

ゴッ



ほら、どーぞ...

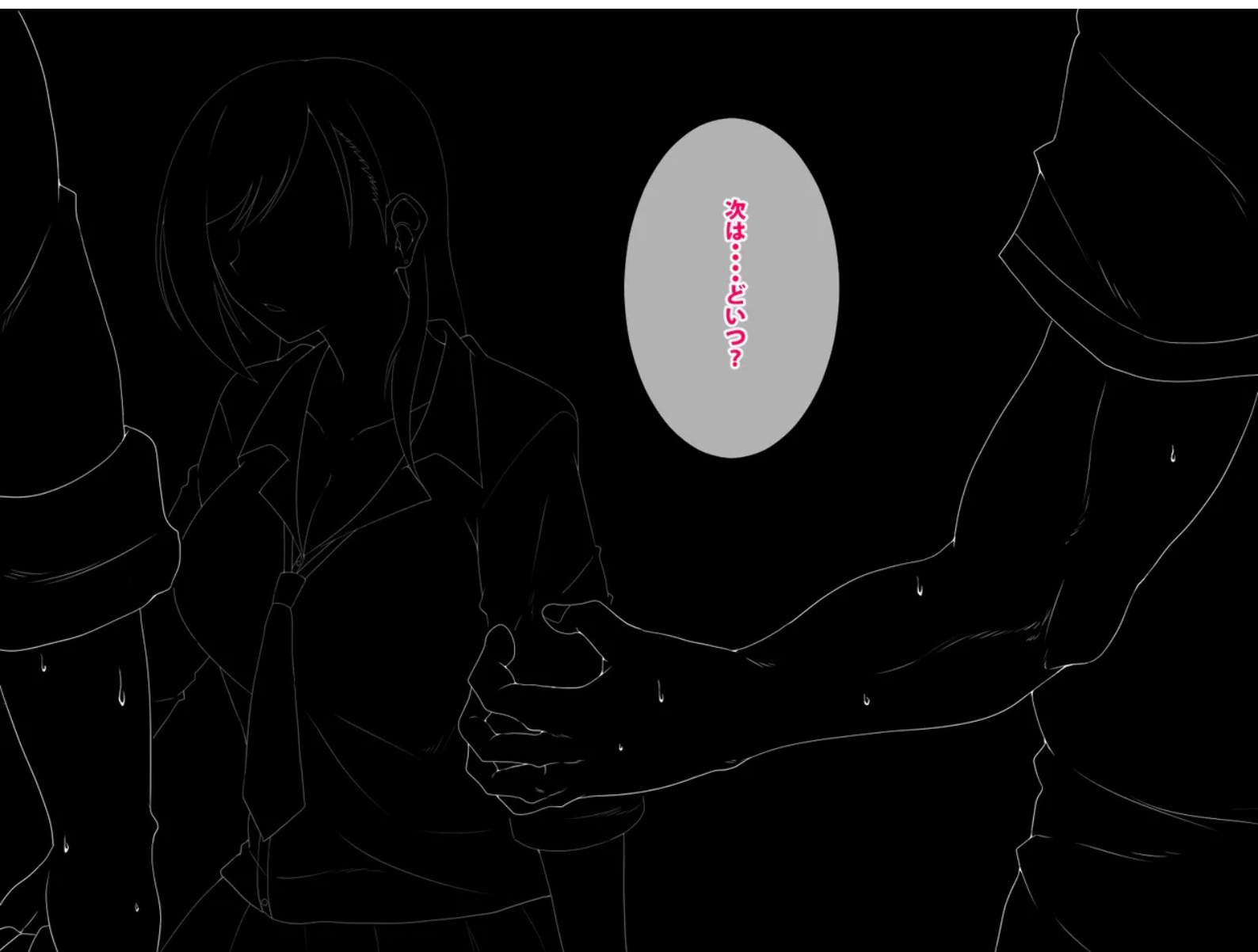
がああっ!

はっ...入れただけで
果ててんじゃない
クソ木偶の坊ーさん

おっ...おい!

どうした!?





次は...どいつ?



はあ...

ホント...口だけの
くだらない奴はつか

が...あああ
も、もう...

ゆ、許してくれ...



チツ……
まだしゃべる
元気があんの？

逝けって！

あああつ！

がぐあああつ！

グズッ

グズッ

グズッ

グズッ



あーうっさいなあ...
もう終わってるわよ
クソ...セクハラ野郎

何やってるんだ!?
斉木...お前!

おいちゃんと
やってるか...
な、なんだこりゃ!?

ガラ...

クッ...

クッ...

あんた…教師のくせに
こいつらと一緒に…

いつもいつも
欲情したキモイ
目で見えてさ…

さ、斉木…
こんな事して…
許されると…





だからさあ...

キモイから
しゃべんな
つってんの！

ああっ！やめろ！

ああっ！やめろ！
ああっ！やめろ！
ああっ！やめろ！

ズッ

ズッ

ズッ

ズッ



はあー

ったく...
どころ行っても
こんな奴はつかし...

あゝあ...
壊れちゃったかな

遅いなあ…

補習が終わるまで図書室で暇をつぶしている。
始まってから随分と経つけど、ゆかりはまだ来ない。
少し気にもなるので様子を見に行こう。

教室に着くとそこにはクラスの
野郎どもの山と、その傍らに
バツの悪そうな顔して
突っ立ってるゆかりの姿が…。



ゆかりにガン無視されて、
さらには僕と付き合い
だしたのでクラスの連中は
ゆかりに手を出さないと
思っていたんだけど…。
こうなってしまったか。

先生まで…

何やってたわけじゃないのに
妙に体が頑丈みたいで
恐ろしく喧嘩がつよい。
自分に害を及ぼす奴は誰であろうと
容赦なく食い干切って息の根止める。
まさに「狂犬」として荒れていた。

彼女は前の学校で「狂犬」と呼ばれていた。
見た目こそギャルっぽい不良グループに
属したりしていたわけではない。
むしろ一匹狼で集団には近寄らない。

転校を機に変わろうと
何があっても表に出さないよう
我慢していたみたいだ。

でも気の合う人間、心を開いた人間には
とっても人懐っこくなる。
最近僕と付き合いだして本当に穏やかに
なつたと彼女の母親も驚いていた。

ちなみに転校理由は親の転勤。

最近は二人っきりの時は
すっかり甘えん坊になる。
とってもかわいい。

狂犬だったとはとても思えない。

喧嘩はしないと約束していたんだけど
僕の悪口に耐え切れなくなったみたいだ。
連中が僕を馬鹿にするのも、
彼女に手を出したのも、
僕が頼りないからだ…。



喧嘩しちゃダメだって
言ったじゃないか！

分かってる…僕が
頼りないから、
ゆかりに手を出されるし…
馬鹿にされるし…

だってあいっ
りくを馬鹿にして…

僕がもっと強くなるから！
ゆかりにはもっと自分を
大事にしてほしいんだよ！

りく…





りく…やっと
男らしくなったね

ゆかりは
僕が守るよ

うん…♡

ゆかり…

ドン…

ドン…

ぎゅ…♡

ドン…







はあ...はあ
りく...

ゆかり...
もう誰にも
手を出させない

はあ...♡

はあ...♡

たっぽー♡

うん♡
こいつらに
見せつけよう...



あ、ちよつと濡れてるね

あ……

さっきチユーした時に♡

じゃあゆっくり
ほぐしてあげるね

うん♡

くちゅ♡



ホントに甘えんぼだね
臍肉が指にぎゅって
抱きついてくるよ？

あゝ♡

あん♡
だつてえ…
大好きなんだもん♡

乳首もこんなに
ビンビンにして…

あつ♡…それっ
ヤバイって…
イっちゃう♡

ぎゅ♡
ぎゅ♡
ぎゅ♡
ぎゅ♡
ぎゅ♡



いいよ、いっちゃん

あーっ♡

は♡

はうっ♡
あっ！だめ…♡

ビク

いっちゃん…
あああん♡

フーッ

ビク



だからね...りくの
欲しくなっちゃった♡

はあ...♡

はあ...♡

いっぱいお潮
噴いちゃったね...
気持ちよかった？

うん♡

くっ

くっ♡
くっ♡
くっ♡



いつからこんなに
おっきくしてたの？

さっきキス
した時から

うふふ…
私と同じだ♡

ねえ、ゆかり…
やっぱり僕のって…

もっ…

ぎゅっ♡
%oav%



私の彼氏なんだから
自信持ってよ♥
さっき自分で
言ってたじゃん

私はりくのじゃないと
絶対いやなの…♥

ちゅっ♥

そうだね…
お願い

うん♥
任せて!



んっ…りくの好き♡
もう可愛くて…本当に
愛おしくて…大好き♡

んっ…♡
我慢汁いっぱい
出てる…ふふ♡
りくのおいしい♡

んっ♡

ぬほ♡

ぐっ♡

ぬふ♡

ぢゅぽ♡

あっ! ゆかり
激し…いっ!

んふふ♡
我慢しないで
イっちゃって♡



ああっ!もうっ…
だめ…っ!

んっ…♡

いいよ♡喉の奥…
いっぱい出して♡

ふっ…♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡

あっ!ああっ!
ゆかり…っ!

んっ♡
りくう…♡









あんっ♡…もう
じれったいよお…

気持ちよくない？

気持ちいいけどお…
なんかもう…すっごい
恥ずかしいの！

ゆっくりするの
ホントに弱いよね…
可愛いなあ…もう！

うう…
りくってばあ…♡

はあ…♡

あっ♡

んっ♡

ゾク…

ゾク…♡

ゾク…♡

ちゅー！

ちゅー！

ぢゅる、

ぢゅる、





うああ…すごい
大洪水だよ…ゆかり

う……もう…
もう無理だからあ…
りくう…おねがはい…
エッチしよ…しよっ
ねえ…りくう…

アル

アル

トロ…♡

キラ♡

トロ…♡

ごめんごめん
じゃあ、やろっか

は

は



へへ…まずは
私の上ね♥

いっぱい焦らし
ちゃったからね…

覚悟してきてよ…

お、おう！
どんとこいだ！

ふっふっふっ
ふっふっふっ
ふっふっふっ
ふっふっふっ



だって…変なの
入れちゃったから…
りくのいっぱい欲しいの♡

あん…♡

あ…♡

んっ…ああ
りく…♡♡

うおっ…ゆかり
今日すごいね…キツ！

ぬ…♡

きゅん…♡

りくっ♡りくっ♡
りくっ♡りくっ♡
大好き♡大好きだよ♡

あ♡♡

あ♡♡

ゆかりっ！
ホンっと…
激しっ…！

あん♡♡

りくが焦らすのがいけないの♡
今日はりくといっぱいするんだから♡

そ、そうだけど…！

今日のゆかりはいつもに
増して甘えん坊モードだ。
可愛いけど、恐ろしく激しい。





ああっ！ゆかり！
もう…っ！

りくっ♡…私も…
イツチャウ…♡
一緒に…一緒にイッて♡

んあぁっ♡

あっ♡

ああっ！
ゆかりっ！

りくっ♡ああっ♡
熱いの…ふあぁっ♡





ゆかりに負けて
らんないからね！

あゝ♡

ああん♡

あゝゝ♡

ゆかり！ゆかりっ！

ああんっ♡激しっ♡
りくう♡...すごいっ♡

！！
下っ♡

！！
下っ♡

！！
下っ♡

！！
下っ♡

！！
下っ♡



ああん♡りくう♡
すごい♡
…腰砕けちゃう♡

はっ!…ああっ!
もっともっとゆかりの事
気持ちよくさせてあげるよ!

りくう♡…じゅん♡
すごい♡…りくう♡
しゅん♡のきゅん♡♡

あぁ♡
あぁ♡

はあん♡

はっ♡
はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡

はっ♡





はあ...はあ...
やっぱ...♡
.....あつ

はあ...はあ...
大丈夫？

お漏らし...
しちゃった♡

あらら...
そんなに気持ち
よかったんだね

...うん♡

あ...♡

ほ...♡

ほ...♡

ドキ...

ドキ...

ドキ...

ドキ...

ドキ...

ドキ...

えへへ……♡
りく今日すごいね
いっぱいしても
全然萎えない……
元気なまんま♡

あいつらこんなに
出したら死んじゃうよ？

まあ実際瀕死に
なってるけど……

んあ……♡

だからりくはあんな
連中と比べるまでもなく
男らしくて立派だよ♡

あ……♡♡

いつも私が
いっぱい
甘えちゃって
からね……♡

ありがとう……
体力ついたのも
ゆかりのお陰だよ





あうっ♡
りく! 飛んだ♡
すごい勢い♡

あ...っ♡

ぐわっ

あっ...そんな
ことしたら
また...うっ!



今日二人ともヤバイね♥

ホント…すごいよ
燃え上がっちゃって…
もう止まりそうにないね

うん…りくとなら
もっともっどんどん
燃え上がっちゃうよ♥

ちゃ♥

ゴクゴク

ググ

ゴクゴク



教室でやっている事も
傍らにクラスの連中が倒れていることも
時間さえも忘れて
二人だけの世界に没入して愛し合った。

いっぱい…いっぱい
ぎゅっしてえ♡

ゆかり!
離さないから!
絶対!

あゝ♡

あん♡

りくっ♡
りくっ…♡

うん♡ずっと…
ずっと一緒♡
いつまでも…♡

さっきは二人で冗談めかしていたけど
本当に止まることを知らず、どんどんと
愛が燃え上がっていった…。

ぎゅっ♡

ズッ♡

ズッ♡

ズッ♡

あゝ♡

あゝ♡







はっ...♡

はっ...♡はあっ...

気持ちよすぎて
二人とも
頭が真っ白に...

ひゃう♡...はう♡

はっ♡...はっ♡
りく...♡あぁ♡

は...はあ!
ゆかり...

はっ...♡

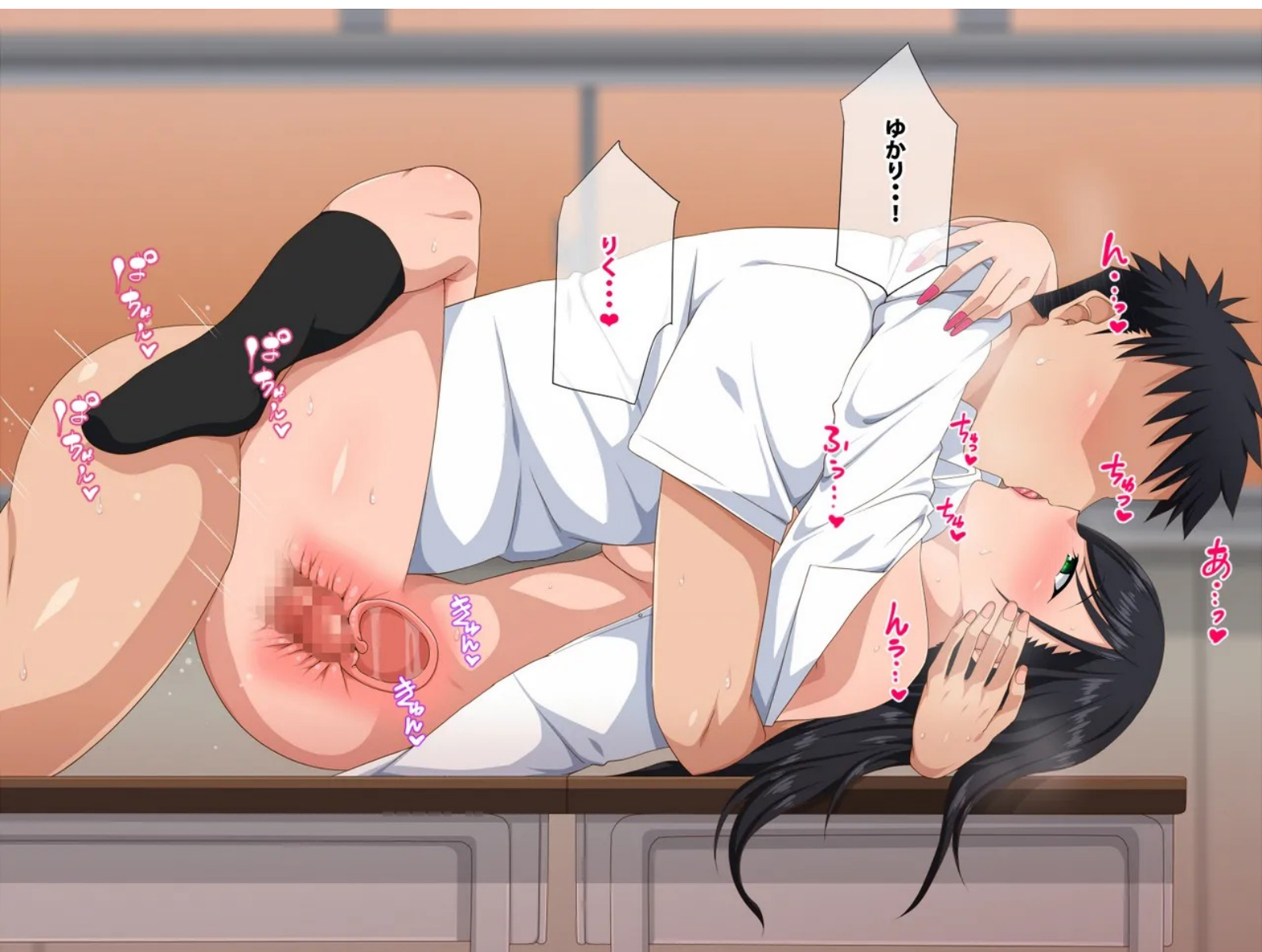
はっ...♡

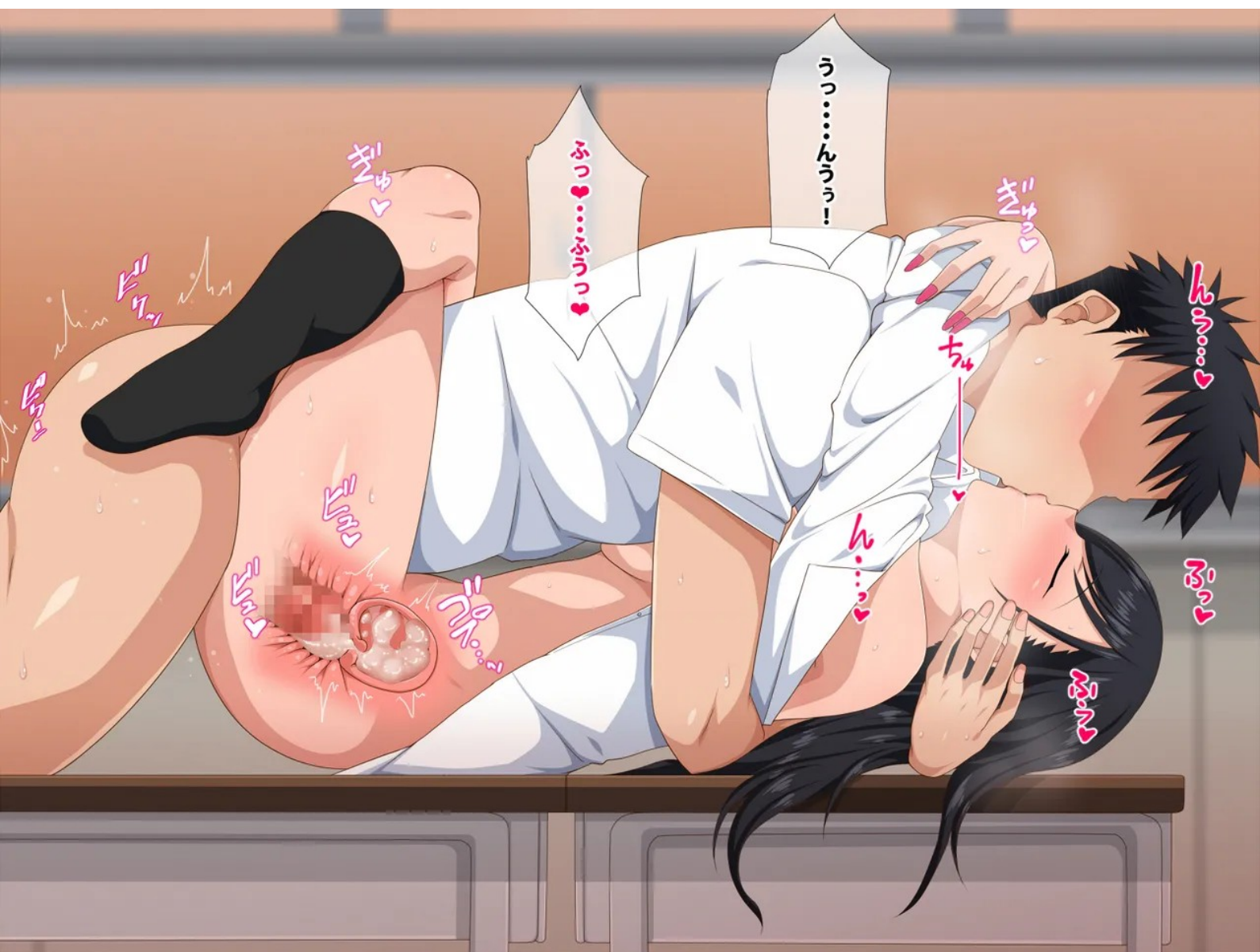
はっ...♡

はっ...♡

はっ...♡

はっ...♡







夕焼け・・・きれい

ああ・・・もう
こんな時間か

家帰って
続きしよ♡

いいけど・・・
コレ、どうにか
しないと・・・

あ・・・
忘れてた

とりあえず
教室は掃除
しておいた。

翌日…教室に行ってみると
誰も来ていなかった。

クラスの野郎たちは自分たちの
自慢のモノがゆかりに全く通じず
加えて腕っぷしでも負けてしまった。
さらには彼女に精根ボロボロにされ
自信喪失してしまったようだ…。
先生含め全員が再起不能になり消えていた…。

こうしてこのクラスは
僕たち二人だけになった…。



二人ではクラスとして機能しないので
僕たちは別のクラスに編入となった。
新しいクラスメイトとも仲良くなって
今は平和に過ごしている。

ねえ、テスト終わったら
どっか遊びに行こ♥

いいけど…勉強せずに
エッチしていいの？

あゝ♥

あん♥

りくもさ勉強ばつかで
溜まってると思って♥

うれしいけど…
止まなくなっ
ちゃわない？

大丈夫♥
一回だけだから…

ぬいっ♥

ぬいっ♥





あっ…ゆかり
イクっ…っ！

はっっっ
♡

私もいつちゃ…っっっ
♡

お…っ
♡

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ビュッ

ふう…イっちゃたし
勉強しようか

うう…
もっとしたい♡

我慢できない？

で・き・な・い・の♡

もう…
しょうがないな

やった！
りく大好き♡

結局勉強できませんでした♡

















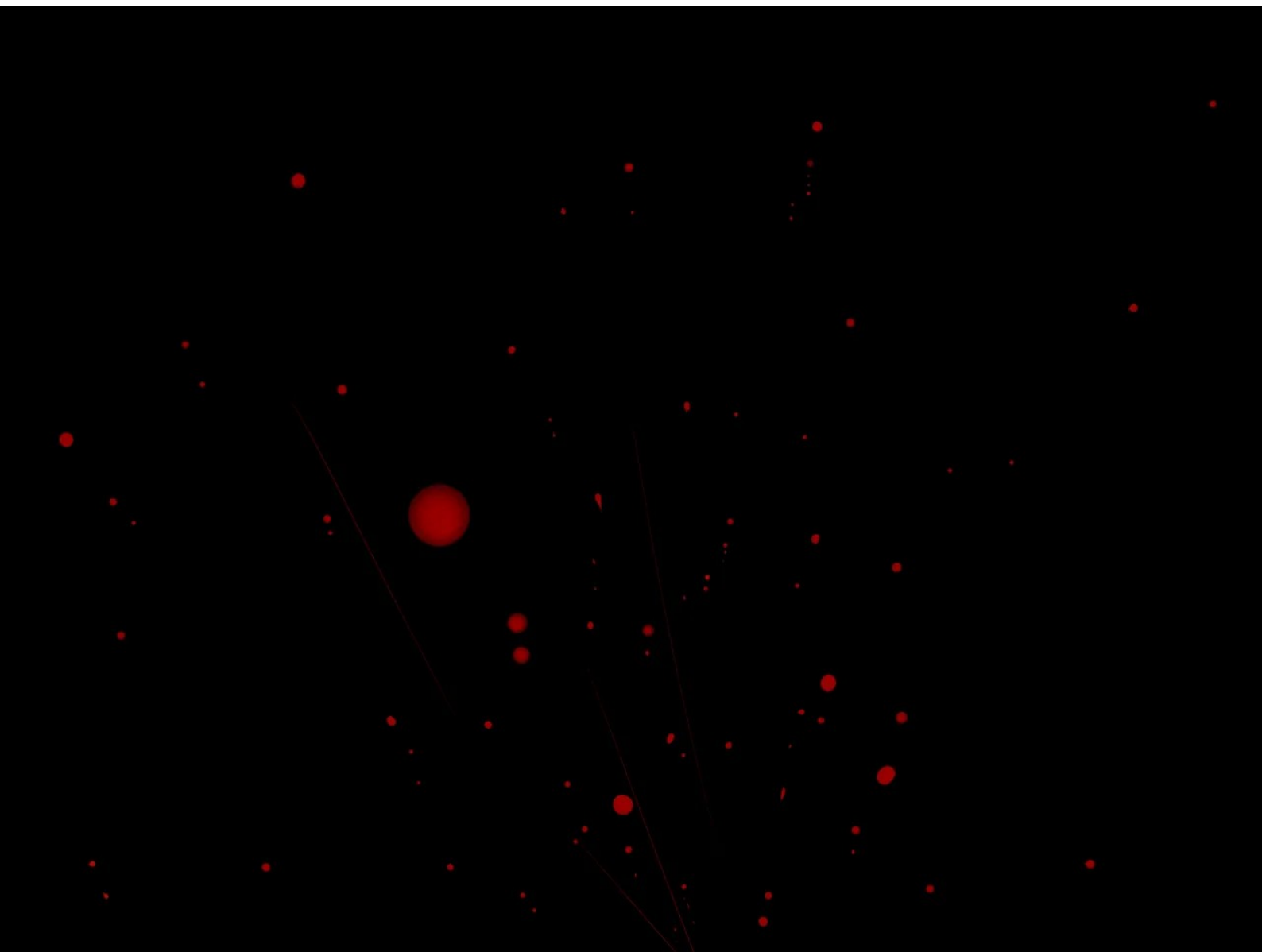






























































































































**この度はサークル「きつね屋根」の作品を
ご購入いただきありがとうございます。**

この作品はフィクションです。

この作品でお楽しみいただければ幸いです。

今後とも当サークルの作品をよろしくお願いいたします。

**制作：サークル「きつね屋根」
2018年1月**

